

## 写真紹介-15「清化園プール」 1962（昭和 37）年 7 月頃

国立市広報担当から当館に移管された写真資料からピックアップしてのご紹介。  
今回は、当財団広報誌『オアシス』8・9月号に掲載した写真などを取りあげてご紹介いたします。



上の写真①は、1962（昭和 37）年 7 月頃に撮影されたとみられるもので、この年に完成した清化園 50m プールを写しており、子ども達をはじめ多くの人でにぎわっている様子が収められた 1 枚です<sup>1</sup>。当時の国立町報で、「昭和 37 年の主なできごと」として清化園 50m プールの完成と一般公開を報じるにあたって掲載された写真です<sup>2</sup>。

清化園は、1961（昭和 36）年 6 月に完成したし尿化学処理施設および塵埃焼却施設<sup>3</sup>で、現在、南区公会堂や温浴施設・商業施設のある「フレスポ国立南」にありました。

この施設は 1960（昭和 35）年 7 月 23 日に試運転が開始されていますが、そのほぼ 1 週間後の 29 日には、清化園内に 25m の児童用プールが完成しています<sup>4</sup>。



### ②清化園（絵葉書）

くにたち郷土文化館所蔵

『町報特集号』第 83 号（1961 年 1 月 1 日）1 面で「運転を開始した清化園」として掲載された写真と、同じものを用いたとみられる絵葉書。当初のし尿科学処理施設などが正面から撮影されています。

- 1 「ファイルNo.」とは、営利を目的としない写真の利用に供するため、当館に保存されている電子データのファイル番号を表示したものです。この表示のある写真は、いずれも当館所蔵の資料です。
- 2 『広報くにたち』第 115 号（1963 年 1 月 1 日）5 面「昭和 37 年の主なできごと」。なお、『くにたち公民館だより』第 53 号（1964 年 7 月 1 日）1 面でも再掲載されています。
- 3 『くにたち 町報特集号』第 93 号（1961 年 8 月 23 日）1 面で、完成した清化園の写真に掲載し、「昭和 33 年 11 月 4 日にさく井工事をはじめ、同 34 年 9 月 24 日には主施設工事に着手、同 35 年 7 月機械据付工事の大部分が完了し、同月試運転に入った。」と説明しています。
- 4 『町報特集号』第 83 号（1961 年 1 月 1 日）1 面「昭和 35 年のできごと」。

清化園プールとして最初に完成した 25m プールは、1960 年 6 月 3 日に着工<sup>5</sup>、清化園敷地内に 25m×15mの学童を対象とした町営プールとして、夏休みに間に合うよう急ピッチで建設されました<sup>6</sup>。当時の国立町の町立小中学校（第一～第四小学校および第一・二中学校）でプール設備を有していたのは第一中学校だけで、各校がこれを共同利用するという状況にあり、各校の児童・生徒のために町営プール建設が急がれていました<sup>7</sup>。

当時の新聞報道に拠れば、この 25m プールは、消毒槽の他、「都下でもはじめての太陽熱利用の温泉設備が施してある」<sup>8</sup>シャワーなど、諸設備を完備した町自慢のプールであったようです。



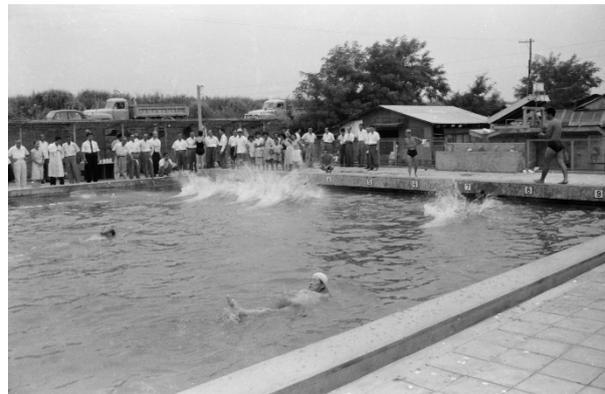
③ファイルNo009\_097\_21

清化園 25m プールの建設工事の様子。国立町報 第 75 号（1960 年 7 月 1 日）2 面「プール建設工事はじまる」に掲載された写真。



④ファイルNo011\_102\_25

最後の仕上げを急ぐ清化園 25m プール。国立町報 第 76 号（1960 年 8 月 1 日）1 面「この夏のうれしいおくりもの 町営プール完成近し」に掲載された写真。



左：⑤ファイルNo011\_103\_21・右：⑥ファイルNo011\_103\_13

1960 年 7 月 29 日に行われたプール開き（清化園 25m プール）の様子を収めたと思われる写真。左の写真⑤は町報特集号 第 83 号（1961 年 1 月 1 日）3 面「昭和 35 年のあゆみ 整備される教育施設」において、「7 月完成の清化園プール」と題して掲載されています。

1960 年に完成した清化園 25m プールは、前記のとおり、町立各小中学校の児童・生徒のために建設されたという経緯もあって、完成した 1960 年の夏の利用は、町立小中学校の児童・生徒に限られていたようです。それが翌 1961 年になると、ようやく一般へと公開されるようになります。

この清化園プールの一般公開が初めて報じられた町報<sup>9</sup>に拠れば、公開期間は 8 月 1 日

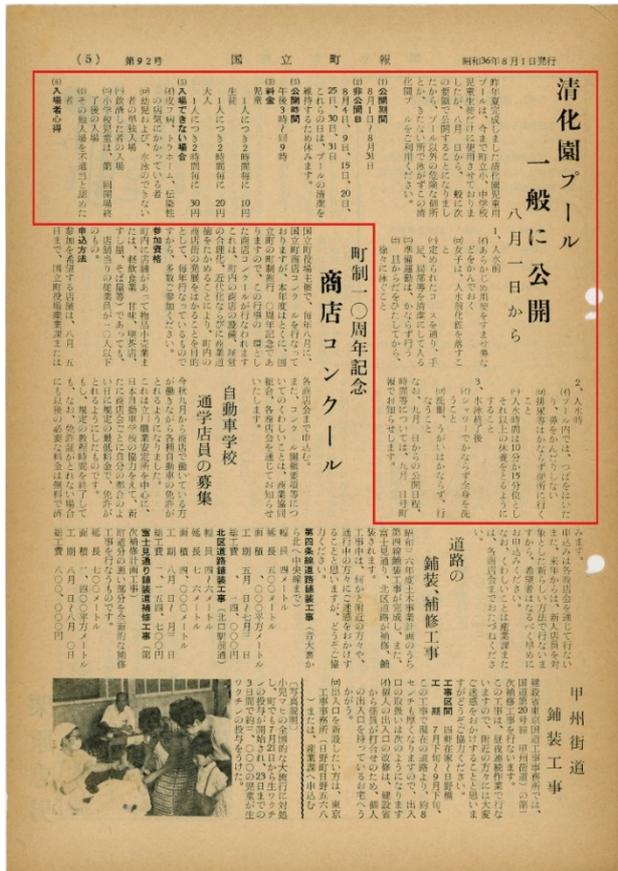
<sup>5</sup> 『読売新聞』1960 年 6 月 4 日付「太陽熱利用のシャワーも 国立で清化園にプール」。なお、この写真紹介文において参照・使用した新聞記事は、国立市中央図書館所蔵の『国立市関係新聞記事』の各年々に収録されたものに拠っています。

<sup>6</sup> 『くにたち』（国立町報）第 75 号（1960 年 7 月 1 日）2 面「プール建設工事はじまる」。

<sup>7</sup> 『読売新聞』1960 年 7 月 16 日付「国立に新プール完成」。

<sup>8</sup> 『産経新聞』1960 年 7 月 28 日付「太陽熱でプール 国立町にできる」。

<sup>9</sup> 『くにたち』（国立町報）第 92 号（1961 年 8 月 1 日）5 面「清化園プール一般に公開」。



⑦『くにたち』第92号（1961年8月1日）5面「清化園プール一般に公開」  
くにたち郷土文化館所蔵（一部加工）

から同 31 日まで、期間中プールの清潔を維持するため 7 日間の非公開日があり、公開時間は午後 3 時から同 9 時まで、料金は 2 時間毎に大人 30 円、生徒 20 円、児童 10 円とされています。

一般公開の開始時間が午後 3 時となっているのは、町内小中学校の利用（体育授業としての利用でしょう）を優先させたことによるものだったようです<sup>10</sup>。学校の利用がなくなったであろう 9 月以降においては、午前 10 時から一般に公開されています<sup>11</sup>。

しかし、この午後 9 時までの公開時間。夜間に泳ぐことができるだけの十分な照明設備があったのでしょうか？ 写真資料からは、プールの四隅に照明灯らしきものが確認されますが、夜間泳ぐとかなり暗かったのではないかと想像されます。また、当時の清化園周辺には諸設備や住宅などはまだ殆どなかったはずで、1963（昭和 38）年の町報でも「清化園までおいでになるときは、途中の夜道が暗く、物そうですし」<sup>12</sup>と注意書きがなされているくらいです。いったいこの夜間公開で、どのくらいの利用があったのでしょうか？ 利用状況などを示す資料を検出できていないため明確には分かりませんが、夜間利用はかなり少なかったのではないのでしょうか。結局、清化園プールの夜間公開はこの時だけで、その後はなされなかったようです。



⑧77ファイルNo011\_104\_11 を加工  
清化園 25m プールのプール開き  
当日に撮影されたとみられる 1 枚。プールの四隅に照明灯らしきものが設置されているのを確認できます。

<sup>10</sup> 『産経新聞』1961年7月22日付「清代〔マ〕園プール開放」では、「使用時間は町内の小、中学校が使い終わった午後三時から夜九時までとなっており、九月には午前中から開放する予定。」と報じられています。

<sup>11</sup> 『くにたち』（国立町報）第94号（1961年9月1日）4面「プール公開日程」では、9月中の一般公開日程等が示されています。それに抛ると、公開期間が9月1日～同15日（非公開日3日含む）、公開時間は午前10時～午後6時となっています。

<sup>12</sup> 『広報くにたち』第123号（1963年6月1日）1面「"ほたる"とぶ夏の夜の清化園」。

さらに、1962年になると清化園内に50mプール(50m×25m)の建設が開始され、起工式が2月15日に行われています<sup>13</sup>。



⑨ファイルNo017\_171\_16

清化園50mプールの起工式の様子。国立町報 第102号(1962年3月1日)1面「清化園プール起工 矢川道拡幅築造工事も」掲載写真と一連撮影の内の1枚。



⑩ファイルNo019\_181\_17

国立町報 第115号(1963年1月1日)5面「昭和37年の主なできごと」に掲載された写真。工事中の50mプールの様子が写されています。



左：⑪ファイルNo019\_181\_32・右：⑫ファイルNo019\_182\_11

写真⑪⑫とも清化園50mプールを西側から東側方向へと撮影している写真。上の写真⑩(ファイルNo019\_181\_17)も同方向から撮影されており、比較すると写真⑪で工事が進んでいるのが分かります。写真⑫は完成した50mプール。

この50mプールは、着工の段階では「5月いっぱい完成の予定」<sup>14</sup>とされていましたが、かなりの急ピッチで工事が進められたのか、着工から1ヶ月半後の1962年3月31日には完成したものと、翌年の町報で報じています<sup>15</sup>。

ところが、同年5月になされた新聞報道に拠ると、5月中旬の段階で50mプールはまだ完成しておらず、工事中のプールの写真を掲載し、6月末までに完成予定である旨が述べられているのです<sup>16</sup>。いずれにしても7月14日の落成式<sup>17</sup>よりも前、7月1日には25mプールと一緒に一般公開されていますから<sup>18</sup>、それまでに完成していたことは間違

<sup>13</sup> 『広報くになち』第102号(1962年3月1日)1面「清化園プール起工 矢川道拡幅築造工事も」。なお、新聞報道に拠れば1962年2月2日に50mプールの工事入札が行われたようです(『読売新聞』1962年2月2日付「国立で公認プール建設 夜間照明付き5月完成」、『朝日新聞』同5日付「清化園に公認プール 国立」)。

<sup>14</sup> 前掲註13の国立町報と同じ。

<sup>15</sup> 『広報くになち』第115号(1963年1月1日)1面「昭和37年の主なできごと」年表部分および写真説明文のいずれにおいても3月31日に清化園50mプール完成と報じています。

<sup>16</sup> 『読売新聞』1962年5月15日付「国立で公認申請 谷保に建設中の50mプール」、『朝日新聞』1962年5月15日付「水泳競技はこちらへ 多摩川わきに50mプール」。いずれも工事中の50mプールの写真を掲載し、6月末までの完成を報じています。

<sup>17</sup> 『東京新聞』1962年7月15日付「都下初の公営長水路 国立の町営プール落成式」。

<sup>18</sup> 『広報くになち』第108号(1962年7月1日)1面「水泳シーズンです 安全な場所で泳ぎましょう」。

いありません。どの段階をもって「完成」とするかの差によって、完成日が相違したのでしょうか？ 現段階では追及できるだけの手がかりがありませんが、新聞報道のプールの写真（5月中旬の状況）から鑑みて、3月末日（町報の報じる完成日）の時点ですぐ泳げるぐらいまでに50m プールが完成していたということはなさそうです。



⑬ファイルNo019\_184\_08

写真①（ファイルNo019\_183\_26）と一連で撮影されたとみられる1枚。50m プールを写真①とは逆方向（東側から西側方向へ）から写しています。よくみると、このプールの奥（西側）が駐輪場になっていることも確認できます。

新設された50m プールは、「三多摩地区では初の公営長水路プール。」<sup>19</sup>として話題の施設であったようで、新聞各紙の記事に何回も取り上げられています。それらの記事では、「日本水連の公認プールとするため、設計当初から同水連の指導を受けており、近く公認の申請をする。」<sup>20</sup>や、「町では都下最初の公認プールにしようと日本水連に申請している。」<sup>21</sup>とあって、日本水泳連盟の公認プールとするために申請がなされる点が述べられています。また、翌年までにはプールサイドにスタンドを建設して、全国大会の誘致も予定されているとも報じています<sup>22</sup>。

清化園の50m プールが公認プールとなったか否かは、町報などにその情報が見いだせないため、現時点でははっきりしていません。公認プールとなったとすれば、それなりに広報されているような気もするのですが…。いずれにしても翌年（1963年）に建設予定と報じられていたスタンドは、写真資料から判断する限り建設されていないようです。



左：⑭ファイルNo025\_251\_34・右：⑮ファイルNo025\_251\_35

<sup>19</sup> 『毎日新聞』1962年7月5日付「国立に公営長水路プール」。

<sup>20</sup> 『朝日新聞』1962年5月15日付「水泳競技はこちらへ 多摩川わきに50mプール」。

<sup>21</sup> 『産経新聞』1962年7月15日付「街路灯」。

<sup>22</sup> 『読売新聞』1962年7月11日付「国立に長水路プール」など。



⑯ファイルNo027\_278\_13

前頁の写真⑭⑮は 1963 年撮影とみられる写真。撮影された 50m プールの向い側（北側）にスタンドの設置はなされていません。同年撮影とみられる写真には手前側（南側）の様子が分かるものは見当たりませんが、翌 1964 年撮影とみられる写真⑯をみると、こちら側にもスタンドは設けられていないようです。

プールに付属する施設については、写真資料だけからその詳細をつかむのは、なかなか難しいものが多いのですが、50m プールと「並行工事」で建設された「ブロック建て百二十九平方メートルの脱衣場」<sup>23</sup>については、建築状況を示した写真が残されており、ある程度その設置状況を窺うことができます。

この「脱衣場」は、25m プールの西側に建てられたようで、その手前部分（50m プールの西側）は駐輪場として利用されたスペースであったことが確認されます。



左上：⑰ファイルNo019\_181\_05・右上：⑱ファイルNo019\_181\_18

左下：⑲ファイルNo019\_182\_03・右下：⑳ファイルNo019\_184\_13

写真⑰～⑲は「脱衣場」の建築の様子を収めた写真。この「脱衣場」は「ブロック建て」と新聞記事で報じられていましたが、写真⑰からみて壁面は鉄筋入りのコンクリートブロックの積み上げによる成形であったと考えられます。写真⑳は完成後の「脱衣場」。写真⑰～⑲よりやや正面側から撮影されています。

<sup>23</sup> 前掲註 16 の『読売新聞』と同じ。



㊶ファイル№019\_183\_22

清化園 25m プールを、東側から西側方向へ撮影しています。25m プールの奥（西側）に「脱衣場」の建物があったことを確認できます。建物の中央部分に通路が設けられていたことも分かります。



㊷ファイル№019\_183\_06

清化園内を西側から東側方向へ撮影した1枚。中央にある園内道路の右側が駐輪場となっています。屋根付きの駐輪スペースには収まりきらず、自転車があふれています。奥にみえているのは清化園 50m プール。

この「脱衣場」の建物は、写真資料からみて建物中央に通路が通っており、左右それぞれ独立した空間を陸屋根で繋いだ形になっていました。正面からみて中央通路右側の部屋には正面の左右2か所に扉が設けられており、この扉の前にそれぞれ「男子更衣室」「女子更衣室」と読める表示がみられます。このことから、中央通路右側の部屋が「脱衣場」空間であったのだろうと考えられます。では、通路を挟んだ左側部分は何の部屋であったのでしょうか？ 写真資料を探してみたところ、正面にある小さな窓に「券売場」と読める写真が見つかりました。ここがプールの入場券売場であったのでしょうか？ 入場券売場が設けられるような部屋ならば、事務室として利用されていた部屋ではないかと想像しますが如何でしょうか？ 当時の様子をご存じの方から情報をお聞かせいただかないと、このようなちょっとしたことでも分からないというのが現状です。



前掲写真㊶の拡大・加工

中央に通路が通っており、左右は独立した部屋となっています。丸印のところに「男子更衣室」「女子更衣室」と読める掲示があることから、この中央通路右側の部屋は更衣室として使われていたとみられます。なお、前掲の写真㊶～㊸からすると、通路左側の部屋より右側の部屋（更衣室）の方が大きい部屋として造作されていることが分かります。新聞記事では1,700人分の更衣室として報じられていますが、内部はどのようになっていたのでしょうか？ 気になるところです。



②③ファイル№019\_183\_14 (右は部分拡大)

中央通路左側の部屋の正面にある小窓に「券売場」とあるのが確認されます。ここがプールの入場券売場だったのでしょうか？ ちなみに、この通路左側の部屋には、前掲の写真⑰～⑳を確認しても出入口らしき部分が見当たりません。中央通路側に出入口があったのではないかと想像していますが、よく分かっていません（前掲の写真⑳をよくみると通路側正面近くに出入口の扉らしきものが写ってはいません）。

唐突ですが、プールで泳いだ後って結構のどが渴きますよね？ プールで遊んだ後、よく冷えた飲み物や、かき氷・アイスクリームなどを楽しんだ経験をお持ちの方も多いのではないでしょうか。

清化園プールにも、そのような要望に応えるべく売店が設けられています。プールができた当初（1960年 25m プール完成）から売店があったのかは分かりませんが、50m プールが完成した 1962 年には設置されていたようです。

設置場所は、「脱衣場」の建物で事務室と想定した部屋（中央通路の正面左側の部屋）と、プールとの間にあったようです。



②④ファイル№019\_181\_07 (右は部分拡大・加工)

手前に写っているのは清化園 50m プール。プールの右奥に「脱衣場」の建物がありますが、その手前に「売店」と看板を掲げた切妻屋根の建物が設置されているのが確認できます。



【前頁の写真】

左：②⑤ファイル№019\_183\_15・右：②⑥ファイル№019\_183\_16

駐輪場から南側（プール敷地方向）に向けて連続で撮影されたとみられる写真。右の写真②⑥では、「脱衣場」の事務室と想定した部屋の裏側（プール側）に売店があるのが分かります。ただ、この写真の撮影時点では「売店」の看板は設置されていません。なお、売店からさらにプール側に目をやると、ソーラーパネルに似た装置とその下にシャワーがあるのが認められます（写真②⑤にも右側に写っています）。25m プール建設にあたって、「都下でもはじめての太陽熱利用の温泉設備が施してある」シャワーとして新聞記事に報じられていた設備がこれだったのででしょうか？ 左の写真②⑤で、駐輪場の左に接してみえているのが 50m プール。25m プールは南隣（正面奥）にあります。



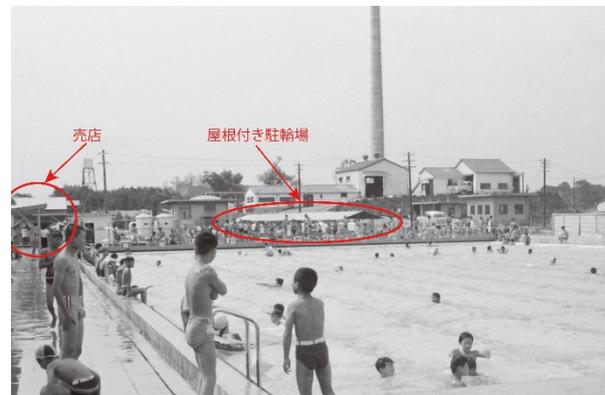
左上：②⑦ファイル№019\_184\_05

右上：②⑧ファイル№019\_184\_06

左下：②⑨ファイル№019\_183\_13

いずれも清化園 50m プールの完成した 1962 年の撮影とみられる写真。売店の底部分は、葦簀張りであったことがみて取れます。多くの子ども達でにぎわっている売店は、プールの人気スポットでもあったことでしょう。子ども達の売店での買い物が、プール料金の何倍もかかってしまうことがあるという声もあがっています（国立町報 第 133 号・1964 年 1 月 1 日 3 面「新春対談」くにたち婦人の会会長 清水キセ氏の発言より）。

ところが、この売店も翌 1963 年になると場所が移動していた可能性がありそうなのです。次の写真③⑩をみてください。これは、1963 年に撮影されたとみられる 1 枚で、50m プールを東側から西側方向に撮影したものです。この 50m プールの奥側（西側）には前年まで屋根付きの駐輪場がありましたが、写真③⑩にはそれが見受けられません。その代わりに「売店」と<sup>のぼり</sup>か看板のかかった切妻屋根の建物が設置されているのが確認されます。建物自体は前年の売店とよく似ていますから、曳家（あるいは移築）して移動させたのではないかとみられるものです。



左：③⑩ファイル№025\_251\_28 を加工・右：前掲写真⑬を拡大・加工

左の写真③⑩は、1963 年のプール開き神事の行われた 7 月 1 日に撮影されたとみられる 1 枚。後ろに写っている清化園のし尿処理施設には、この年の 3 月 27 日に竣工式が行われた新施設が写し撮られています。右は前掲の写真⑬の部分拡大で、前年（1962 年）に同方向を撮影しているもの。比較すると変更点分かります。

付属施設を探って暫し彷徨いまいましたが、清化園プールに関するニュースとしては、50m プールが完成・オープンしたこの年（1962年）、清化園プール行きバスの運行が開始されたのも取り上げておくべき事柄でしょう。

清化園プールゆきバスの  
運行をはじめました

町ではプール利用者のために、プール行きバスの運行について、立川バスと折衝しておりましたが、このほど運行を始めました。

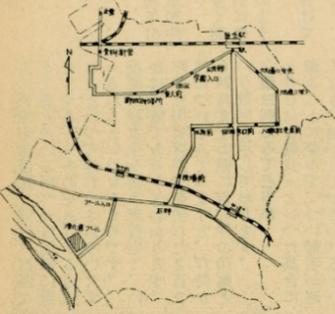
プール開設時間 午前9時～午後7時  
運行期間 9月15日まで

料金 立東母子寮前からプールまで20円  
国立駅からプールまで 15円  
子供は全線 10円

なお、時刻表、運行経路は次のとおりです。

〔時刻表〕

| 母子寮前発車時刻 | プ ール前発車時刻 |
|----------|-----------|
| 9.00     | 9.30      |
| 10.00    | 10.30     |
| 11.00    | 11.30     |
| 12.20    | 12.50     |
| 13.20    | 13.50     |
| 14.20    | 14.50     |
| 15.20    | 15.50     |
| 16.20    | 17.00     |
| 17.25    | 18.06     |




清化園50メートルプールも完成して、7月1日から一般に公開されている。  
ハシヤギまわるカツパたち



左：①『広報くになち』第109号（1962年8月1日）5面  
「清化園プールゆきバスの運行をはじめました」

くになち郷土文化館所蔵

右：②ファイル№019\_184\_04

左は、国立町報 第109号（1962年8月1日）5面に掲載された清化園プール行きバスの運行を知らせた記事。右の写真②は同記事に掲載されたもの。清化園25m プールを南側から北側方向へ撮影しています。50m プールは奥側（北側）に隣接して設けられています。

清化園プールは多摩川の土手沿いの地にあったことから、中央線沿線地域から来場するとなるとかなりの距離を移動しなければならず、特に子ども達にとっては大変だったでしょう。当時の町報でも「このプール〔清化園プール：引用者〕は町民の方々に市街地からかなり離れているので、相当の不便さが懸念されました」と述べており、バス運行の開始によって「多少の問題を残してもこの点〔市街地から離れている不便：引用者〕は解消されたように思われます」<sup>24</sup>としています。町民より、「プールゆきバスを旭通りでいくら待っても乗れませんので、国立駅からも始発してもらえないものでしょうか。」<sup>25</sup>といった声が当時あがっていることからみて、プール行きバスは多くの人に利用されていたようです。プールから離れた地域に住む町民にとっては、プールへの足として役立っていたことでしょう。また、プール設備のある公立学校がほぼなかった当時、授業としてプールを利用する際にもバスが活用されています<sup>26</sup>。なお、新聞報道に拠ると、当初7月20日から運行を開始する予定であったプール行きバスは、やや遅れて同22日から9往復の運行を開始したとされています<sup>27</sup>。

<sup>24</sup> 『広報くになち』第115号（1963年1月1日）1面「昭和37年のまとめ」。

<sup>25</sup> 『広報くになち』第125号（1963年7月22日）3面 同年7月16日14時～16時に公民館で開催された、くになち婦人の会の中の身近な政治学習サークル主催の勉強会での質疑のひとつ。

<sup>26</sup> 『広報くになち』第133号（1964年1月1日）3面 「新春対談」で、「公立学校で教科に使う場合には、バス料金から何から全部町が負担しているんですよ。」と沢井左源太議長が発言しています。

<sup>27</sup> 『読売新聞』1962年7月24〔22の誤記カ〕日付「きょうから運転開始 国立町営プール行きバス」。この記事では、「はじめ町の要望で立川バスだけが路線申請したが、これを知った京王帝都も申請を出したため、両社競願の形となり東京陸運の認可が遅れていたもので、二十一日付けでようやく認可された。」と運行開始が遅れた理由を報じています。

1960年に25mプールが、1962年に50mプールが完成していた清化園プールですが、1965（昭和40）年になると25mプールの東側に幼児用プールが建設されます。

清化園の幼児用プールは1965年5月31日に完成<sup>28</sup>、同年7月1日より一般公開されています。この幼児用プールは、直径15mの円形で、深さが30～50cm<sup>29</sup>、プール中央に噴水があり、プールサイドにはスベリ台や石の山の遊具も備えられていました。



左：③③ファイル№019\_181\_10・右：写真③③の現状撮影（2020年8月4日撮影）

左の写真③③は、1962年に多摩川の土手の上から同年完成の清化園50mプールを撮影したとみられる1枚。左に25mプールが、奥に50mプールがみえています。手前の空き地となっている場所には、1965年に幼児用プールが建設されることになります。右の道路は石田街道。街道の先にはまだ中央自動車道は建設されていません。



左：③④ファイル№031\_320\_12・右：③⑤ファイル№033\_323\_05の部分拡大

左の写真③④は、国立町報 第152号（1965年6月1日）1面「幼児用のプールが完成」に掲載された写真。プール中央の噴水やスベリ台、石の山の遊具も確認できます。石の山については、「水の流れ落ちる石の山を鎖を伝って登り降りできる遊び場」（『読売新聞』1965年5月22日付「話の小窓」）と紹介されています。右の写真③⑤からは、水が流れ落ちるという設備はないようにみえますが、どうだったのでしょうか？



<sup>28</sup> 『広報くにたち』第160号（1966年1月1日）4面「おもなできごと」の記述に拠ります。ただし、同号2面に掲載の写真には「幼児用プール完成（5・1）」とタイトルが付されており、5月1日に完成したかのようにも読めます。また、5月22日付の『読売新聞』には、既にその完成を報じた記事（「話の小窓」）が掲載されています。

<sup>29</sup> 『くにたち公民館だより』第64号（1965年7月1日）1面「清化園プールを開きます」。

## 【前頁の写真】

左：写真③⑥・右：写真③⑥の拡大・加工

左の写真③⑥は1966年頃に清化園の全景を空撮した1枚。1965年に完成した幼児用プールが認められます。国立市報 第181号（1967年6月1日）1面で写真掲載された清化園の新施設増設工事の様子が写っていないことから、遅くともそれより前に撮影されたものでしょう。左には多摩川が、上部には建設中の中央自動車道がみえています。

幼児用プールが完成したことにより、大人用の50mプール、子ども用の25mプールと併せて清化園プールの体裁が整うこととなります。その後、老朽化によって2000年の公開をもって終了となるまでの間、毎夏（1973・昭和48年除く）、3つのプールをメインとする清化園プールの一般公開がなされていくこととなります（各年の開場期間・入場時間・料金については、別添資料にまとめていますのでご参照ください）。

この清化園プールは、国立在住であった作家、山口瞳氏の作品中にも登場しています<sup>30</sup>。その中では、山口氏とその家族が清化園プールのファンであると述べられ、①入場者が少ない点、②プールが大きい点、③水質が良い点はその理由として挙げられています。

理由のひとつに挙げられた入場者の少なさについては、次のように語られています。

「はじめは、プールは人気がなかった。つまり、すいていた。おそらく、東京都内のプールで、こんなに人のすくないところはなかったろう。」

この空いていた清化園プールも次第に入場者が増えていったようで、

「去年あたりから、急激に、プールへ来る若い人たちの数がふえてきた。」<sup>31</sup>

と述べられています。文中に示された入場料金（「大人五十円、児童三十円、幼児十円。」）から判断して、おそらく1967年頃を舞台にして記されたものと考えますが<sup>32</sup>、この前年あたりから入場者が急増したという状況にあったようです。

当時のプールの入場者数については、1963年の利用状況が町報に掲載されています<sup>33</sup>。それに拠れば、同年の7月1日から9月15日までの開場期間において、児童30,373人、生徒39,162人、大人17,312人、計86,847人の利用があったようです。その他に計6,180人の団体利用（公立小中学校児童生徒・音大小学校児童・都立五商生徒）も示されており、このシーズンだけでトータル93,000人強が利用しています。単純計算で1日平均1,200人程度の入場者があったこととなりますから、この時点でもかなりの人気施設であったとみられます。特に入場者に占める割合は、小中高校生の児童・生徒が中心となっていますから、夏休みにおいて子ども達が向かう定番のスポットであったことでしょう。



<sup>30</sup> 山口瞳『わが町』（新潮社、1968年12月5日）「プールサイド」。

<sup>31</sup> この文に続けて入場者増加の理由（プール行きバスの増設など）が述べられていますが、「なんといっても、このプールは気持ちいいことが知れ渡ったためだと思う。」と結ばれており、清化園プールは同氏がひいきにしていた施設であったことを窺わせます。

<sup>32</sup> 1963年の値上げで、2時間まで大人50円、生徒30円、児童15円となっていたプール料金ですが、1967年に「児童の心身の健全な育成をはかることを目的として、児童の使用料金を値下げ」（国立市報 第182号・1967年7月5日4面「河川敷運動場を無料開放 児童料金を5円値下げ 市営プールも開く」）され、児童の2時間までの料金が10円になっています（3歳までは無料）。

<sup>33</sup> 『広報くにたち』第128号（1963年10月1日）7面「盛況だった清化園プール」。

### 【前頁の写真】

左：⑳ファイル№031\_317\_25・右：㉑ファイル№031\_317\_26

1965年7月頃に連続して撮影されたとみられる写真。いずれも、この年に完成したばかりの清化園の幼児用プールが手前に写されていますが、左の写真㉑では奥に25mプールが、右の写真㉑では奥に50mプールが位置しているのが分かります。どのプールも子ども達を中心に多くの人でにぎわっていた様子がよく分かります。

さらに新聞報道をみると、1966（昭和41）年には106,000人の入場があり、「二十五歳プールや幼児用プールは日曜などはイモを洗うような混雑ぶりで札どめも起きるほど。」と記されています<sup>34</sup>。山口氏が作品の中で紹介されていたように、入場者が増えてプールが混雑している様子が報じられています。

なお、同記事では、「同市〔国立市：引用者〕には市立小学校が五校あるが、プールを持っている学校はゼロ。そこで水泳好きの小学生はみな清化園プールに殺到する。」とも報じています。公立学校などのプール授業に供するため、当時の清化園プールでは、子ども用の25mプールは、日曜を除いて午後からの一般公開とされていました<sup>35</sup>。前記の1963年の利用状況にあった団体利用というのも、学校授業としてのプール利用であったとみられます。

このような清化園プールへの一極集中の状況は、1968（昭和43）年に転換点を迎えます。「四十三年度〔1968年度：引用者〕の市政のなかで教育行政は、最重点施策」<sup>36</sup>とされ、体育館やプールなどの学校施設の整備費が前年度に比較して大幅に増額されることになります。そして1968年4月に、学校施設の整備事業のトップとして、第四小学校でプール建設に着手され<sup>37</sup>、同年7月30日には学校プール第1号が第四小学校に完成<sup>38</sup>、第四小学校と第二小学校の児童の水泳教室のため、8月から開放されることとなりました<sup>39</sup>。



㉒ファイル№055\_550\_08

学校プール第1号として完成した第四小学校のプール。プールは長さ25mで、浄化装置を完備した近代的な学校プールであると紹介されています。この写真は国立市報 第202号（1969年1月5日）5面で「四小にプール完成」として掲載の写真ですが、同市報 第197号（1968年8月5日）1面掲載の写真と一連で撮影された1枚とみられ、プールが開放されて間もない頃に撮られた写真と考えられるものです。

<sup>34</sup> 『東京新聞』1967年6月16日付「子ども料金を安くします」。

<sup>35</sup> 清化園25mプールにおいて、学校利用のため午前中の一般公開が制限されていた点については、1963年から1968年まで（1963年は18日間の一部日程のみ）その表記を確認しています。

<sup>36</sup> 『市報くにたち』第193号（1968年5月5日）2面「7月完成をめざす四小プール」。

<sup>37</sup> 前掲註36と同じ。

<sup>38</sup> 『市報くにたち』第202号（1969年1月5日）4面「おもなできごと」。

<sup>39</sup> 『市報くにたち』第197号（1968年8月5日）1面「わあ！学校で泳げる！ 市立第四小学校待望のプールが完成」。

第四小学校のプール完成を報じた市報では、「市立小中学校のプール建設計画は、毎年二校につくることを目標に本年度〔1968年度：引用者〕からその建設に着手しました」として、第四小学校のほか第三小学校にもプールを建設するため、9月頃から着手する旨を述べています。そして「四十六年（1971年：引用者）までには市立小中学校の全校にプールが完成する予定です」とされていました<sup>40</sup>。

しかし、その後学校プールの建設は急ピッチで進み、前記の通り、1968年9月1日に第三小学校のプール建設が始まると<sup>41</sup>、翌1969（昭和44）年の2月1日には第一小学校、4月1日には第二小学校のプール建設に着手します（3校とも同年7月10日完成）<sup>42</sup>。そして、この年の5月16日に開かれた臨時市議会で第五小学校・第一中学校・第二中学校のプール建設費などの補正予算案が可決、6月には既にプール建設に着手しており<sup>43</sup>、いずれも7月15日に完成しています<sup>44</sup>。ここにおいて、1971（昭和46）年の全校完成予定を前倒しする形で、1969年には市内の公立小中学校全校に一挙にプールが設置されることになりました。

国立市内の公立小中学校のプール建設年月日

| 学校名                    | 着工         | 完成            |
|------------------------|------------|---------------|
| 第四小学校                  | 1968年4月    | 1968年7月30日    |
| 第三小学校                  | 1968年9月1日  | 1969年7月10日    |
| 第一小学校                  | 1969年2月1日  | 1969年7月10日    |
| 第二小学校                  | 1969年4月1日  | 1969年7月10日    |
| 第五小学校                  | (1969年6月カ) | 1969年7月15日 ※1 |
| 第一中学校                  | (1969年6月カ) | 1969年7月15日    |
| 第二中学校                  | (1969年6月カ) | 1969年7月15日    |
| 第六小学校<br>(1970年4月6日開校) | 1970年4月10日 | 1970年7月25日    |
| 第七小学校<br>(1972年4月1日開校) | 未検出        | 1972年7月10日    |
| 第三中学校<br>(1975年4月1日開校) | 未検出        | 1975年6月30日    |
| 第八小学校<br>(1978年4月1日開校) | 未検出        | 1978年5月 ※2    |

上記一覧の年月日は、国立町報および同市報掲載内容から抽出したものです。

※1：1975年7月移転工事の記載あり。 ※2：『国立市史 別巻』の記載から抽出。



左：④ファイルNo059\_595\_29・右：④ファイルNo075\_756\_14

いずれも1969年に撮影された写真。左の写真④は、国立市報 第210号（1969年8月5日）1面「待望の学校プールが全校に完成」に掲載された第五小学校のプール。右の写真④は国立市報 第215号（1970年1月5日）5面「小中学校全校にプールが完成」に掲載された写真で、第一小学校のプールを撮影したとみられる1枚<sup>45</sup>。

<sup>40</sup> 前掲註39と同じ。

<sup>41</sup> 『市報くにたち』第202号（1969年1月5日）5面「おもなできごと」。

<sup>42</sup> 『市報くにたち』第215号（1970年1月5日）4面「おもなできごと」。

<sup>43</sup> 『市報くにたち』第208号（1969年6月5日）2面「この夏は全校で水泳が 五小と一中・二中プールの建設きまる」。

<sup>44</sup> 『市報くにたち』第215号（1970年1月5日）5面「おもなできごと」。

<sup>45</sup> 写真④に関する学校名の特定等は、当館臨時職員の爲國による調査成果を用いました。

なお、学校プールについては、第一中学校のプールに関して少し取り上げてみたいと思います。はじめの方で、清化園 25m プールが建設された 1960 年当時、第一中学校にはプールがあった点を述べました。しかし、前頁掲載の「国立市内の公立小中学校のプール建設年月日」の一覧をご覧くださいと、第一中学校には「1969 年 7 月 15 日」にプールが完成したことになっています。これは一体どういうことなのでしょう？

公立小中学校にプールの建設を一気に進めた 1969 年、第一中学校にも 25m プールが建設されましたが、実は、その前に第一中学校にはプール設備が存在していました。

国立町に町営上水道の給水が開始された 1959（昭和 34）年<sup>46</sup>。当時第一中学校にあったプールにも、この町営の水道が引き込まれています。翌 1960 年 1 月 1 日付の町報特集号 47 にそのことが紹介され、掲載されたのが下の写真<sup>42</sup>です。



④2ファイル№007\_062\_28

町報特集号では「第一中学校プールに町営水道が引込まれた。早速、うだるような暑さの中をプールで大喜びをしている学童たち。」とコメントが付されています。このプールは町内の各校で共同利用されていたようですが、一連撮影の写真からすると、町内のいずれかの小学校が利用していた時に撮影されたものようです。

さらに当時の国立町報をみると、町報特集号より前の 1959 年 8 月 1 日付の町報で、既に写真<sup>42</sup>が掲載されていたことが分かります。この点からして写真<sup>42</sup>は、1959 年 7 月頃に撮影されたであろうと考えられるもので、遅くともこの時には第一中学校にプールが存在していたことになります。

この第一中学校のプールは、同校が 1950（昭和 25）年 9 月 19 日に現在地にあった旧消防学校の校舎へと移転した際、旧消防学校の施設としてあった「訓練用貯水槽」を転用したものであったようです<sup>48</sup>。その後、創立 10 周年記念事業として、南側に 12 坪の記念脱衣所が PTA によって作られ（1957・昭和 32 年 7 月落成）、設備面の補充もなされたようですが、1969 年のプール新設にあたって撤去されています<sup>49</sup>。

<sup>46</sup> 『くにたち』（国立町報）第 56 号（1959 年 4 月 1 日）1 面「町民待望の給水開始」など。

<sup>47</sup> 『町報特集号』（写真特集号）第 67 号（1960 年 1 月 1 日）4 面「昭和 34 年をかえりみる」。

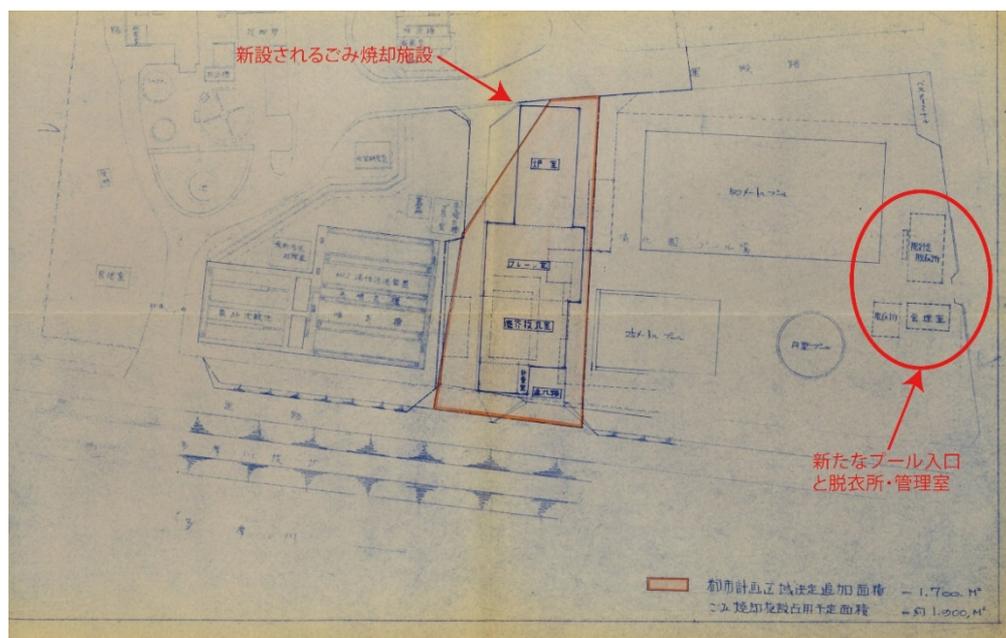
<sup>48</sup> 『国立町報』第 3 号（1951 年 9 月 15 日）2 面「国立中学校秋の行事」において、第一中学校の行事として「九月五日 水泳大会」が記されており、この大会が行われたのは、旧消防学校の施設を転用したプールであったのかもしれませんが。

<sup>49</sup> 旧消防学校施設を転用したプールは、1967 年 4 月の国立市教育委員会調査による「国立市公立小中学校の概況」では「防火用池」と付記があり、正式なプール設備として認識されていなかったようです（『くにたち公民館だより』第 90 号・1967 年 9 月 5 日 3 面）。なお、第一中学校のプールについては、『わが校のあゆみ』（国立第一中学校 20 周年記念誌、1967 年）31・148～153 頁、『わが校のあゆみ 創立三〇周年記念誌』（国立第一中学校、1978 年 3 月）8・9 頁を主に参照しました。

さて、市内の公立小中学校に一気に整備された学校プールですが、市報等の情報に拠ると、小学校では長さ 25m×幅 10m (6 コース)、中学校では長さ 25m×幅 11m (コース数不明) の規模のプールで、浄化装置のほかにシャワーや消毒槽の付帯設備などが備えられていたようです<sup>50</sup>。清化園の 25m プール (長さ 25m×幅 15m 9 コース) と比較すると、学校プールは幅が若干小さく建設されていたことが知られます。

市立小中学校の全校へ学校プールが建設されたことで、清化園プールの入場者数に影響があったのかについては、何かを示せるだけの調査ができていません。乏しい調査内容から示せるものとしては、1973 年の清化園プールの一般公開中止に関する新聞報道です。1972 (昭和 47) 年 10 月に着工した国立市清掃工場の建設がプール隣接地で行われていたことから、危険防止のために 1973 年はシーズンを通して清化園プールの一般公開が中止されました<sup>51</sup>。このプールの公開中止に関する新聞報道で、前年 (1972 年) の利用者数が表示されています<sup>52</sup>。それに拠ると、児童 23,128 人、生徒 8,825 人、大人 19,238 人の計 51,191 人の利用があったようです。前記の 1963 年の 86,847 人 (団体利用除く) や 1966 年の 106,000 人という数字からみると、利用者数が減少していることが認められます。やはり、学校プールが完成したことによって、来場者の減少という影響があったのかもしれない。ただ、利用者の内訳をみると、児童・生徒が過半数を占めており、夏休みに子ども達が訪れる人気スポットとしてのポジションはキープしていたようです。

ちなみに、清掃工場の建設 (1974・昭和 49 年 6 月完成) により、前半で写真資料から検討した更衣室や事務室とみられる建物等は撤去され、プール入口も変更されています<sup>53</sup>。



#### ④清化園配置計画図 (一部) に加工

くにたち郷土文化館所蔵 国立市清掃工場 (ごみ焼却施設) の建設にあたって作成されたとみられる配置計画図。清化園プールのすぐ西隣 (上部図では左隣) に工場が新設されることになっているのが分かります。なお、この場所にあった更衣室などは、入口とともに東側 (上部図の右側) に新たに設置されることになっています。

#### くにたち郷土文化館所蔵

<sup>50</sup> 前掲註 43 および『市報くにたち』第 210 号 (1969 年 8 月 5 日) 1 面「待望の学校プールが全校に完成」。

<sup>51</sup> 『市報くにたち』第 261 号 (1973 年 7 月 5 日) 5 面「ことしは学校プールが開放されます」。なお、清化園プールの公開中止に伴う代替措置として、各小学校に完成していた学校プール (第一～第七小学校) が、土・日曜日の決められた開放日に小学生を対象として公開されています。

<sup>52</sup> 『産経新聞』1973 年 6 月 7 日付「夏の天国休みます 谷保の市営プール 隣の清掃工場建設で」。

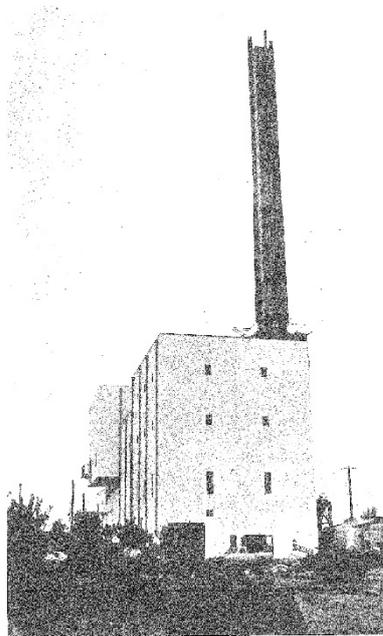
<sup>53</sup> 『市報くにたち』第 276 号 (1974 年 7 月 5 日) 8 面「清化園プールを開放」では、「プール施設の位置が一部変更されました。」として、プール入口の変更や男女更衣室・荷物預り所の新設に関して告知されています。

市報の基本方針  
 住職のいかに民の生活の向上  
 教育、文化、スポーツの発展  
 社会福祉と市民生活の向上  
 生活環境の向上、よりよく住むための市政  
 市民の健康と幸福を旨とする

# 市報くにはたち

昭和49年7月5日発行 A6276 ◆発行と編集 東京都国立市役所 電話425-76-2111

人口と管轄  
 196.6.1日現在  
 人口 42,300  
 世帯数 9,300  
 面積 4.47km<sup>2</sup>  
 人口密度 9,460人/km<sup>2</sup>



新設工場は一日8時間18トンのゴミを食う食器庫だ

## 清掃工場が いよいよ稼働

国立市清掃工場が、このほど完成し、いよいよ稼働することになった。この工場は、本市の清掃事業の近代化を図るため、従来の焼却炉を撤去し、最新の焼却炉を設置し、焼却灰を再利用する方式を採用している。また、焼却炉の稼働に伴って、焼却灰の処理も行う。この工場は、焼却灰の処理能力が、従来の焼却炉の2倍に達している。また、焼却灰の処理能力が、従来の焼却炉の2倍に達している。また、焼却灰の処理能力が、従来の焼却炉の2倍に達している。

### ④国立市清掃工場の完成を告げる市報

『市報くにはたち』第276号（1974年7月5日）1面に掲載された記事（『市報くにはたち—縮尺版—（第215号～第314号）』掲載紙面の抜粋）。1面に、新設された工場の写真が大きく掲載されています。この工場の東側（写真の左側）に接するように清化園プールが位置していました。

そのため、前半で紹介した「ブロック建て百二十九平方メートルの脱衣場」の建物や売店は、1972年以前に清化園プールを利用されたことのある方でないとお存じないかもしれません。

前半でも申し上げたとおり、写真資料からだけでは、プール以外の付属施設はよく分からないところが多いのが現状です。当時清化園プールをご利用されていた方々からすれば当たり前との位置関係などであっても、後から追っかけて調べている者からするとチンプンカンプンなんていうことがザラにあるのです。例えばトイレ。写真資料では「便所」という表示が写り込んだものが僅かにありますが、実際にはどこにあったのか確実には分かっていません（更衣室の建物のプール側かと想像はしていますが…）。

清化園プールに当時通われたご経験のある市民の皆さんは、結構多いのではないのでしょうか。もしこれをお読みいただいて何かしらご存じのことがありましたら、是非ともご教示いただけると助かります………と、お願いついでに厚かましくもうひとつ。

清化園プールに当時通われたご経験のある市民の皆さんは、結構多いのではないのでしょうか。もしこれをお読みいただいて何かしらご存じのことがありましたら、是非ともご教示いただけると助かります………と、お願いついでに厚かましくもうひとつ。



④5ファイルNo043\_440\_07

上の写真④は、1967年に撮影されたとみられる1枚で、右上に移されている掲示板の書き込みからすれば同年7月22日に撮られたものと考えられます<sup>54</sup>。正面の入場料など

<sup>54</sup> この掲示板には気温と水温が記されていますが、先に紹介した山口瞳氏の作品中で、「入口の掲示板

の表示板には各プールの規模が記されており、特にプールの深さなど参考となる情報も写し撮られています（幼児用プールは「直径 18 メートル」とあり、前記引用の公民館だよりの記載より 3m大きく表示されています）。

この写真の建物。いったいどこにあったものなののでしょうか？ また、何のための部屋だったのでしょうか？

右側に「出口」と記された木の札が掲げられているのがみえますが、位置関係の分かるような写真が他になく、これ単体では所在場所がよく分かりません。プール監視員の詰所的な感じもするのですが、プール側に向かってプールの監視も行える位置にあったのでしょうか？ 入場料金について表示している点からすると、ここで入場料金の徴収が行われた可能性もありそうです。そうすると出入口付近にあったものなののでしょうか？

当時のプールの施設を捉えた好資料であるのですが、その所在場所や担った役割がよく分からないため、うまく活用できない写真なのです。恐らく、国立市清掃工場の建設により、「脱衣場」などとともに撤去された建物のひとつではないかと考えていますが、何かしらご存じのことがありましたら、是非とも当館宛にお知らせください。何卒よろしくお願ひします。

今回は、1960 年から 2000 年までおよそ 40 年間にわたって、国立における夏を彩った清化園プールを中心に資料を紹介しました。



④国立市広報移管写真 1994 年 8 月 7 日内の 1 枚

1994 年 8 月 16 日に清化園の幼児用プールを撮影した 1 枚。確認した限り、広報移管写真の中で清化園プールが撮影されたものは、この 1994 年の一連撮影分が最後となっているようです（同プールは 2000 年を最後に老朽化により終了）。

『市報くにたち』第 1244 号（2020 年 7 月 5 日）では、例年夏季に実施されていた市立学校のプール一般開放が、新型コロナウイルス感染症の影響によって中止となったことが報じられました<sup>55</sup>。また、市立学校でプールを使用する授業についても、このコロナ禍の下で今夏は中止となっています。今まで当たり前であったこと、日常としてあったことが、いたる所で覆されるような状況が続いています。この原稿を執筆している現在、全国の新規感染者数が増加傾向にあり、お盆の帰省も例年どおりにはいかないといった声があがっています。まだしばらく、「With Corona」の状況が続くでしょう。下を向かず、ウイルスに対する感染予防対策を怠らず、新たな日常を求めて歩を進めていきたいものです。

当くにたち文化・スポーツ振興財団の広報誌、『オアシス』8・9月号において写真①を紹介しておりますが、それを補足できるような内容となっておりますでしょうか？ 国立市広報担当から当館へ移管された写真資料については、資料整理やデジタル化、撮影内容の情報入力作業などを適宜進めてはおりますが、何分お金と人手の制約もあって、一気呵成に作業が進展するという状況にはありません。確認し得た情報や資料だけでも紹介できればと、清化園プールの建設された 1960 年から 3 つのプールが整備された 1965 年頃までを取り上げてみました。いつもながらの無計画性と見切り発車から、十分に調査も行わない状態で、ダラダラと散漫な内容を書き綴ってしまいました。この読み辛さは、執筆者の能力不足に起因しています。どうぞご堪忍ください。

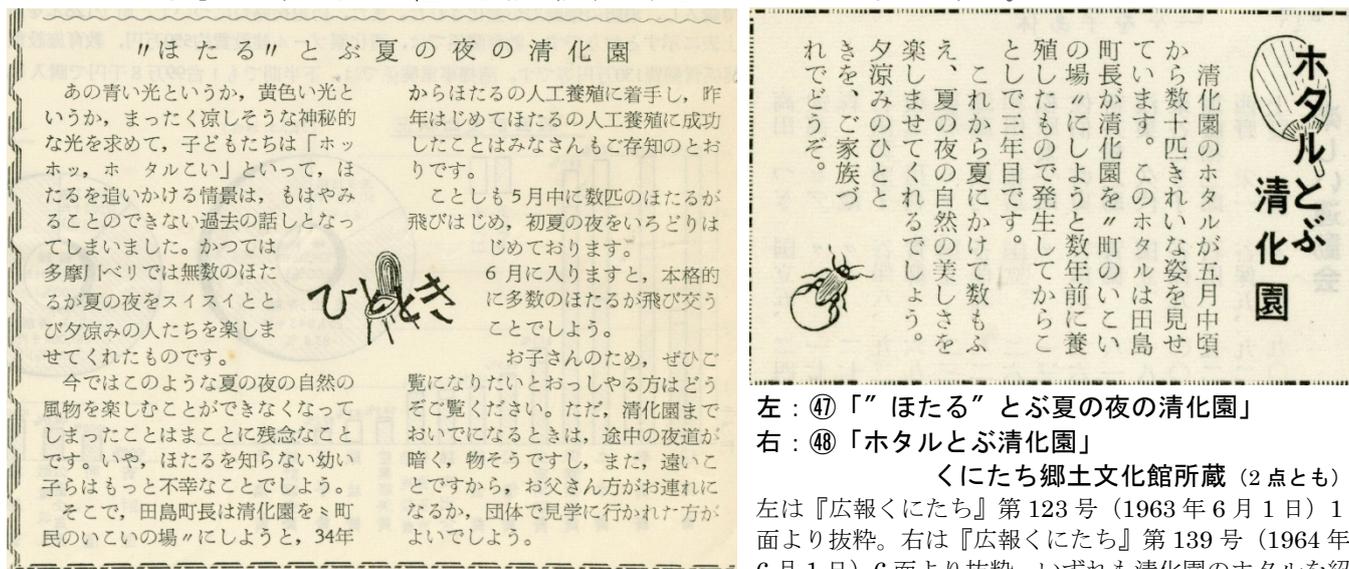
に、今日の水温が二十四度と記されていた。」とあります。この文は 1967 年頃の状況を記していると思われますので、同氏が水温を確認した掲示板とはこれだったのかもしれませんが。

<sup>55</sup> 『市報くにたち』第 1244 号（2020 年 7 月 5 日）7 面「夏の学校プール一般開放を中止します」。

さて、それでも懲りずに最後にちょっと別のお話を。

近年、国立市役所の環境政策課において城山池へのホタルの幼虫の放流が行われ、ホタルの繁殖が試みられています。昨年放流した幼虫から、今年は12匹のホタル（ヘイケボタル9匹、ゲンジボタル3匹）が確認され、成果が示されてきています。清化園プールのあった清化園内でも、以前ゲンジボタルの養殖が行われていたのですが、国立でホタルの養殖が行われていたことをご存じでしょうか？

清化園内でのホタルの養殖については、田島守保氏（当時の国立町長・同市長）が書籍の中で「ホタル園」としてこの人工養殖について語られています<sup>56</sup>。また、当時、新聞報道で何回も取り上げられた話題であったことから、その存在自体は把握していました。しかし、当時の町報にはこのホタルの養殖を告げた記事がほとんど見当たらず、確認できているものは下に示した僅か2点の記事のみといったところなのです<sup>57</sup>。



左：④「「ほたる」とぶ夏の夜の清化園」

右：④「ホタルとぶ清化園」

くにたち郷土文化館所蔵（2点とも）

左は『広報くにたち』第123号（1963年6月1日）1面より抜粋。右は『広報くにたち』第139号（1964年6月1日）6面より抜粋。いずれも清化園のホタルを紹介し、ホタル狩りに来園するよう誘っています。

ホタルの人工養殖にあたっては、ホタルの幼虫を放流するため、湧き水を引いた全長25mの人工の小川（川幅約35cm）3本が清化園内に作られ、川の上には高さ1.5mのフレームにビニールの網を張った囲いが設けられていたようです<sup>58</sup>。この人工の小川は、新聞報道では囲いの内外から撮影された写真が幾つも掲載されており、その状況を概ね捉えることができます。

しかし、この「ホタル園」と称された人工養殖場については、いったい清化園内のどこに所在したのかよく分かりませんでした。また、私が確認したところでは、広報移管写真の中には、ホタル園を撮影したとみられるものはありませんでした。夏の到来を告げる資料として良い素材ではあるのですが、何ともつかみどころがなく、紹介できる写真もない。ないない尽くしで、何かしら情報がないものかと以前から考えていたものでした。

今回清化園プールを取り上げるにあたって、当時プールに通われていた方から、「ホタルを養殖しているのは知っていたが、養殖場はプールからは見えなかった」、「所在した場所はプールの西側方向なのではないのだろうか」、「プールは18時頃に閉場となっていたが、その後にホタルを見学に行ったという記憶はない」といった貴重なお話をうかがうことができました<sup>59</sup>。

<sup>56</sup> 田島守保『町づくりと先達』（1971年2月10日、学陽書房）「第八章 科学する心（ホタルの人工養殖について）」99～107頁。

<sup>57</sup> 清化園プールとホタル園に関する資料調査（町報・市報・公民館だより・議会だよりの関係情報の検出）に関しては、本年の学芸員実習生の皆さん（岩田さん、竹本さん、長谷川さん、望月さん、山田さん）にご協力いただきました。

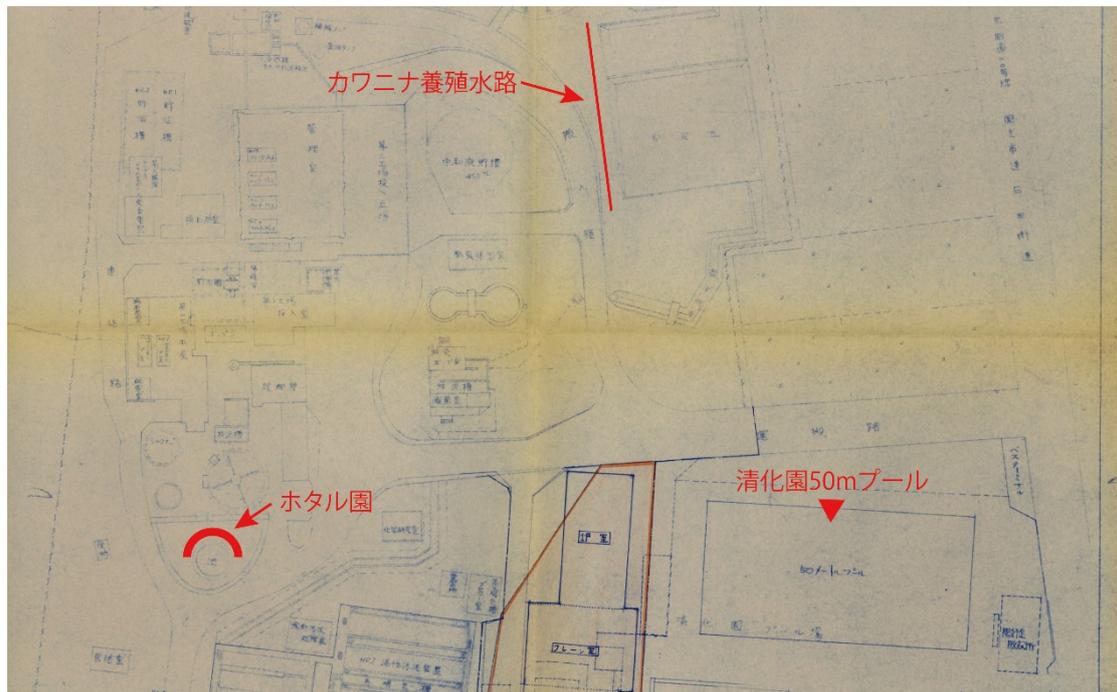
<sup>58</sup> 前掲註56の書籍101～102頁。101頁には「ホタル園の図」が掲載されています。

<sup>59</sup> 当館の内堀館長より紹介の野村正福様からお話をうかがいました。

また、その後の調査過程では、ホタル園があった当時、清化園にお勤めであった方を当館の内堀館長から新たに紹介してもらい、直接お話をうかがえるという願ってもない機会に恵まれたのです。

うかがったお話によると、1965年頃には清化園施設の宿直職員がホタルのチェックをしており、確認したホタルについて日誌に記録していたということです。ただ、ホタル狩りができるような、数多くのホタルが群れをなして飛び交うという状況ではなく、成虫となるのは十匹前後で、その期間も短く、それを見学に来る園内に人が訪れたという記憶はないということでした（清化園の敷地は、プール以外でも一般の人が自由に入ることができたそうです）。

加えて、ホタルの人工養殖場であるホタル園のほか、ホタルの幼虫のエサとなるカワニナを養殖するための水路（幅1m、深さ20cm）が、園内に別に設けられていた点もご教示いただき、ホタル園とそのカワニナの養殖水路について、所在場所とその概略図を図示してもらいました。教えていただいた所在場所を示したのが下の図です。

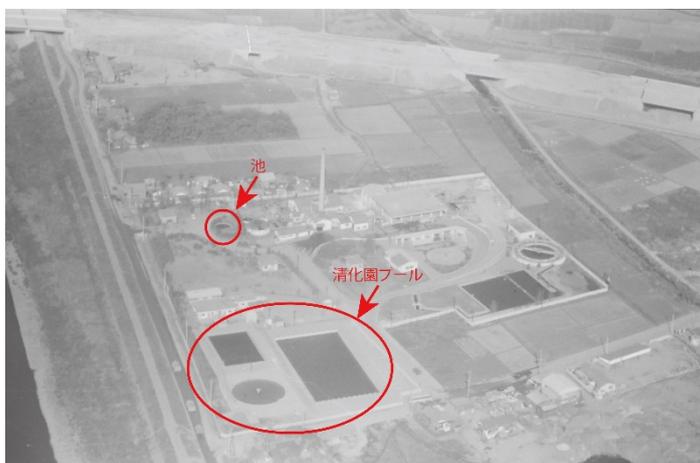


④清化園配置計画図（③と同資料）の一部に加工

くにたち郷土文化館所蔵

清化園プールの西側（上の図では左側）にあった池の周りに網で囲まれた水路があり、長さは池の半分くらいであったとのことでした。また、プールの北側（図では上部）の「安定池」の傍らにカワニナの養殖用水路があったそうです。

ご教示いただいたホタル園の情報を念頭に、改めて広報移管写真を確認していたところ、



写真③⑥ファイルNo039\_382\_20を加工

もしかしてこれはホタル園か!? という写真をみつけました。それが左の写真です。

既に前にご覧いただいている写真（写真③⑥）なのですが、この写真を拡大してみると、空撮であるため鮮明ではありませんが、清化園プールの西側（写真では上側）にある円形の池の周りに、何か囲われたようなものを認めることができます。



写真③⑥の一部分を拡大・加工

この写真③⑥の撮影年代は、前記のとおり 1966 年頃とみられ、降<sup>くだ</sup>っても 1967 年 5 月以前であると考えられます。清化園内にあったホタル園については、1967 年 7 月 12 日付の新聞記事<sup>60</sup>で、ホタル園の写真を掲載して報道がなされていますから、写真③⑥が撮影された段階では、ホタル園は存在していたはずですが。

空撮写真を拡大しているため、あまりにもボヤっとして「よく分からない！」とお叱りの声が聞こえてきそうですが、現段階で確認できたものがこれしかなく、ご容赦いただきたい次第です。

ホタル園は、1959 年春から当時の田島町長によってホタルの人工養殖の構想が動き出したようで、1960 年春には清化園内に人工の小川が作られています。そして 1961 年 6 月にゲンジボタルの卵を放流、翌 1962 年には養殖に成功して、ホタル 20 余匹が飛び交っているのが確認されています<sup>61</sup>。1963 年には「百数十匹が光をみせた」<sup>62</sup>とも新聞で報じられていますが、次第にその数は減じていったようです<sup>63</sup>。

田島氏の記述によると、1967（昭和 42）年頃に川の水が干からびてホタルの幼虫のエサとなるカワニナが全滅したようで、「ホタル園の悲劇的終末を来したのだ」<sup>64</sup>と記されており、同年辺りを最後に清化園でのホタルの人工養殖は終わりを告げたのかもしれませんが。

この文章の執筆中に、ホタル園に関して記された手紙を見つけました。これは 2016（平成 28）年 11 月に、国立の地域資料を数多くご寄贈いただいた際に添えられていたもので

<sup>60</sup> 『読売新聞』1967 年 7 月 12 日付「はかなかったホタルの光 国立の養殖公園」。

<sup>61</sup> 前掲註 56 と同じ。

<sup>62</sup> 『読売新聞』1963 年 8 月 19 日付「ゆうべの話題」「ホタルがいっぱい 国立町ご自慢の『清化園』」

<sup>63</sup> 新聞記事によってホタルの数には差がありますが、前掲註 60 の記事では 1967 年は 12 匹まで減少しているとしています。

<sup>64</sup> 前掲註 56 104 頁。

す。その中の一部を引用させていただきます。

「当時としては『なぜそこまで』との声が多くありましたが、このホテルは田島町長が九州からホテルを空輸し、町に飼育場を開設し、また、東京の椿山荘とありますが運んで一般公開したりと、環境についてホテルを題材にした広い意味での環境にたいする訴えであったと思います。

国立議会でも批判の声があがりましたが、当時はまだ、食料の一部で配給制度が残る戦後間もない30年代初めの頃のことですから、このことも園の報道などと合わせ新聞を飾る一齣であったと思います。それだけに反響も大きかったのではないのでしょうか。しかし、同時に忘れかかっていた淡い夢を運んだことも事実のように思います。」<sup>65</sup>

清化園内にあったホテル園。田島氏の書籍でその存在を知り、新聞記事を漁ってから早や数年。頭の片隅にありながら手掛かりがなく、資料の出現を待っていたような状況でした。それが清化園プールを取り上げたことが契機となり、ここ1ヶ月程の間で、当時プールに通われていた方、清化園職員としてご勤務されていた方のおふたりから貴重なお話をうかがうことができました。さらに続けて、ホテル園の思い出が綴られたお手紙を拝読することも叶いました。資料調査をしていると、まったく手掛かりのなかった事柄が、ひとつの資料の出現を契機として、堰を切ったかのように次々と明らかになることがあります。こんな時、まるで資料が資料を呼び寄せているかのように感じてしまいます。

清化園プールとホテル園については、まだまだ資料と情報の探索、更なる調査の継続が必要です。この流れにのって、面白い発見があるかもしれません。何かしら新たな進展がありましたら、改めて紹介させていただきます。皆さんもご存じのことがありましたら、当館宛にお知らせいただけると助かります。何卒よろしく願いいたします。

【2020.08.10 中村記】

---

<sup>65</sup> 志茂言成様によるお手紙からの引用。志茂様からは、国立に関する地域資料を数多くご寄贈いただいています。今回掲載した「②清化園（絵葉書）」や前掲註56の田島氏の書籍も、ご寄贈いただいた資料中にあったものです。